

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03409

研究課題名（和文）世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on the Role of Fiction in the Age of World Literature

研究代表者

武田 将明（Takeda, Masaaki）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：10434177

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、世界文学、フィクション論、現場との交流という3つの角度から、現代における文学研究の可能性を広げることを試みた。世界文学に関する、とすれば英語圏中心の考え方を批評し、また、現代の文化人類学・AI研究を文学研究に応用する可能性を模索し、最新のフィクション論から改めて文学の意味を捉え直し、国内外の文学者・研究者と幅広く交友することで、批評・研究が文学の現場に生かされる可能性を模索した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界文学研究とフィクション論は、これまで同時に研究されることがほとんどなかった。本研究は、最新のフィクション論を応用することで、情報化の進展の中で変容する現実のあり方に対応し、同時に国民文学から世界文学へと変化する文学の現状をも反映した文学研究を実践した。その結果、いま世界で生じているナショナリズムへの回帰現象を批判するために世界文学研究が有効であることが判明した。また、最新の文化人類学とAI研究の視点が、18世紀以降の近代文学を読み直すために有用であることも証明した。

こうした成果、および成果を国内外の文学者・研究者と広くシェアしたことで、本研究は現代の文学（研究）の活性化に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This research attempted at enlarging the possibilities of literary studies through the following investigations: renewing the studies in world literature, incorporating the latest achievements in the fiction studies into literary studies, and creating the scene of good interaction between writers, critics, and scholars.

The researchers belonging to our research group criticised the anglocentric concept of world literature, tried to apply the latest studies in anthropology and artificial intelligence to literary studies, reconsidered the essence of literature from the viewpoint of the recent fiction studies, and exchanged information with writers and scholars in and outside Japan. By so doing, they enabled their academic achievements to be applicable to the real scene of literary creation.

研究分野：イギリス文学、批評理論

キーワード：世界文学 フィクション論 現場との交流 文化人類学 AI研究 ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

本研究を構想した背景として、つぎの2つの問題があった。

1) 伝統的な近代文学 = 国民文学という枠組みでは論じられない文学作品が近年注目されている。日本で生まれ、英語で創作する(本科研の期間中にノーベル賞を受賞することとなる)カズオ・イシグロは、その一例である。彼については、従来のポストコロニアル文学という枠組みにもうまく当てはまらない(無理に当てはめている研究もあるが)。また、同じ状況は日本(語)文学にもあり、リービ英雄、水村美苗、多和田葉子のほか、温又柔や(本科研の期間中に文壇デビューした)李琴峰という若い世代からも、世界文学と呼ぶべき作品が生まれている。他方で、文学研究・文芸批評は、こうした新しい文学の動向を論じるべき言葉をまだ十分に備えていない(とりわけ日本語においてはそうである)。そのせいもあって、かつては批評家・文学研究者と現実の創作とが交錯することは決して珍しくなかったが、現在ではこうした現象はほとんど見られない。

2) 現実とフィクションとの関わりが、インターネットを中心とする情報化の進展によって変化している。それは一方で個人が多くの情報にアクセスすることを可能にしたが、他方で個人の嗜好に基づいた情報ばかりを集積して都合のよい「現実」を仮構することも容易にしている(いわゆる「エコー・チェンバー現象」)。後者については、(本科研の申請後)「ポスト・トゥルース」なる言葉が流行し、一般にもよく知られるようになった。「事実」という言葉の重みが薄れていくことは、そもそも事実を記録すること(リアリズム)から出発した近代文学に影響を与えるはずである。

上記の状況を踏まえ、世界文学の時代におけるフィクションのあり方を、これまでの文学研究の蓄積を踏まえつつ、しかし必要に応じて他の学問の知見も取り入れながら探究することで、文学研究を現代の状況に対応するようアップデートしようと考えた。

次に、この問題意識を共有する研究者に声をかけ、小野正嗣、都甲幸治、久保昭博、桑田光平が研究グループに加わった。芥川賞作家でもある小野は世界文学研究と創作とを両立させ、翻訳家としても高名な都甲もまた世界文学研究と翻訳の両方に詳しく、久保は最新のフィクション論に通じており、桑田は主にフランスと日本の現代作家と交流しながら自身の研究を進めている。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の3つにまとめられる。

- A. 世界文学研究における国民文学への疑問、西洋中心の文学観への批判
- B. フィクションの現実への効果に注目した、新たなフィクション論の展開
- C. 現代日本における文学と文学研究の可能性

近年の文学研究における世界文学研究の台頭は、近代文学 = 国民文学という枠組みを逸脱するようなダイナミックな文学への見方を可能にしている。他方で、「世界文学」研究といっても英語圏の文学あるいは英訳のある文学が中心となっている状況は否定できず、日本から新たな世界文学像を発信できるのではないかと思われた。また、これも近年しばしば目にする「(近代)文学の終焉」論に対し、近代文学を前提とした文学研究・文芸批評を脱することで、この分野に活気をもたらすことができるのではないかと予想された。

これと同時に、近年目覚ましい発展を遂げているフィクション論を参照することで、文学研究そのものを刷新することも構想に組み込まれた。フィクション論に関心が赴いたもうひとつの大きな理由は、「研究開始当初の背景」にも記したように、インターネットの発達に伴い、個人が自由に入手できる情報が爆発的に拡大した結果、「現実」の認識のあり方にも変化があるのではないかと考えられたからである。つまり、フィクションを考えることで、現代社会と文学との関わりについても、何らかの提言ができるのではないかと考えられた。

3. 研究の方法

本研究を円滑に遂行するために次の3つの軸を設けた。

- A. 世界文学研究
- B. フィクション論
- C. 現代文学と研究の相互作用

このうちAについては、世界文学の現状を理解すること、主に18世紀以降の近代文学史を現代の視座から再検討すること、そして翻訳と文学作品との関係について考察することが主な分擔となる。

Bについては、現代におけるフィクションの役割の分析、近代文学の枠組みを超えるあるいは逸脱するようなフィクションのあり方の探究、そして最新のフィクション論の文学研究への応

用が主な分担である。

C については、日本における文学状況（研究も含む）の現状分析、批評と創作との関係構築、そして文学批評をめぐる世界的ネットワークの構築が主な分担だった。

上述の研究代表者、分担者、連携研究者について、主な役割を次のように割り振った。

武田将明は A~C のすべてに関わり、特に文学史の再検討、近代文学の枠組みを超えるあるいは逸脱するようなフィクションのあり方の探究、批評と創作との関係構築に力を入れる。

小野正嗣は、主に C に関わるが、世界文学の現状を理解することと、現代におけるフィクションの役割の分析に力を注ぐ。

都甲幸治は、主に A に関わるが、翻訳と文学作品との関係について考察すること、批評と創作との関係構築に力を入れる。

久保昭博は、主に B に関わるが、最新のフィクション論の文学研究への応用、文学批評をめぐる世界的ネットワークの構築に力を傾注する。

桑田光平は、A~C を全般的に補佐するが、特に世界文学の現状を理解すること、最新のフィクション論の文学研究への応用、批評と創作との関係構築に力を注ぐ。

このように役割を割り振りつつ、定期的にそれぞれの研究成果を発表して情報を交換することで、現代文学を活性化するための理論と場所の構築を推し進めようとした。

4. 研究成果

上記のように、本研究の目標は多岐にわたり、その成果を簡潔に要約するのは難しいが、主たる成果を列挙すると以下ようになる。

1. 世界文学研究について、秋草俊一郎（日本大学准教授）、中村和恵（明治大学教授）、小沢自然（台湾・淡江大学准教授）、日比嘉高（名古屋大学准教授）など大学でこの分野の研究を牽引する方々だけでなく、アルパナー・ミシュラ、アキール・シャルマ、温又柔、李琴峰、平野啓一郎、中島京子など、世界文学の担い手である現役の作家、斎藤真理子、小松久恵などの翻訳家、さらには曹泳日など国際的に活躍する批評家からも話を伺うことができた。その結果、以下の知見が得られた。

1-a. 世界文学研究には、昨今の世界で見られるナショナリズムの回帰に対し、有効な異議申し立てを行う可能性があること。平成 29 年度に実施したシンポジウム「魅惑するナショナリズム」は、この事態を受けて急遽実施したシンポジウムだったが、アニー・デュトワ、ヴェロニク・フランパール＝ワイスパートというフランスからのゲスト 2 名を迎えた本シンポジウムにおいて、グローバル化への反動として生じているナショナリズムについては、「グローバル化」対「ナショナリズム」という図式を逃れるような視点が必要となることが確認された。そのような視点については、平成 28 年度に実施したシンポジウム「複数の言語、複数の文学」、および令和 1 年度に実施したシンポジウム「東アジアにおける世界文学の可能性」が探究した。そこでは、多言語を使用する環境で創作することや、沖縄ことばを戦略的に用いて創作することが、ナショナリズムとは異なる形でのグローバル化への抵抗になることが確認された。ただし、これらの創作は、その文学的・歴史的な価値にもかかわらず、必ずしも流通の場に出てくるとは限らない（特に沖縄ことばによる創作は、日本国内でも流通が限られている）。こうした状況を変えるために、文学研究が貢献することが求められているだろう。

1-b. 上記の点と関連し、「世界文学」の概念が一般的にあまりに一面的であることが確認された。具体的には、アルパナー・ミシュラのようなヒンディー語作家の作品は（ヒンディー語の母語話者の人数は非常に多いにもかかわらず）、なかなか日本語母語話者には届かない。また、近年ブームを見せている現代韓国文学の日本における受容についても、曹泳日のような韓国の批評家の視点から見れば、韓国文学の歴史をあまり踏まえていない、偏った輸入であるようだ。この問題は、出版文化のあり方とかかわっており、すぐに変えるのは難しいが、今後も世界の文学者・批評家と連携をとり、また必要に応じて出版関係者とも連絡を取りながら、地道に変えていくべきである。

1-c. 狭義の世界文学というより、近代文学の前提を疑いつつ 18 世紀以降の近代文学を再検討するなかで、現代の文化人類学と AI 研究の知見が有効であることに気づいた。前者については、エドゥアルド・ヴィヴェイロス・デ・カストロ『食人の形而上学』やブルーノ・ラトゥール『虚構の「近代」』などに見られる近代的な世界認識を相対化する理論が、18 世紀以降の文学を特徴づけるものと見られてきた、いわゆる「近代リアリズム」とは別の見方で過去の小説（とりわけ 18 世紀イギリス小説）を見ることを可能にすることが判明した。実際、上述の文化人類学者たちの思想は、たとえばスリニヴァス・アラヴァムダン『啓蒙オリエンタリズム』のような、新しい、非リアリズム的な 18 世紀文学研究と響き合うものがある。この方面の研究成果は、Scot サマー・シーズン 2018 における、大澤真幸、西垣通との対話、および神戸大学での古田徹也、影浦亮平ほかとのシンポジウム（いずれも平成 30 年度）において、武田将明が発表した。このうち、大澤真幸、西垣通との対話を通じて明らかになったのは、現代の AI の問題は究極において神（的な知性）の存在とかかわっていて、この点で、神（的な知性）への懐疑から出発した 18 世紀小説と共通の問題設定を備えているということだった。この知見については、いまだ研究成果を発表するに至っていないが、武田は今後刊行する予定の 18 世紀文学論において、言及

する予定である。

2. フィクション論については、批評家の千野帽子（関西学院大学教授）作家の円城塔、哲学者の西川アサキ、ゲーム作家で批評家の山本貴光、ゲーム研究者の松永伸司など、この分野の最前線で研究・創作を実践する方々の話を伺うことができた。平成28年度に実施したシンポジウム「現代フィクションの条件」（千野、円城、久保、武田が参加）では、まず「現実とフィクションとの境界が曖昧になった」というような、昨今しばしば用いられる言い回しの不正確さが批判された。「現実」のあり方（認識のされ方）が変化することと、現実とフィクションの境界がなくなることとはまったく同義ではない。もしも現実とフィクションの境界がなくなれば、そもそもフィクションを論じる必要もなくなってしまう。ここから、「ポスト・トゥルース」をめぐる世俗的な分析が根本的に問題を含んでいることが明らかとなった。また、令和1年度に実施した「現代フィクションの可能性」（山本、松永、久保、武田が参加）では、現実と文学との関わりについて、文学は現実をハッキングする力をもつこと、また、現代のゲームでは、現実的に人間のプレイヤーがすべてを把握できない広大なヴァーチャル空間が生まれ、かつ勝手に増殖していること、さらには現実とゲームだけでなく、ゲームの中でもプログラムとゲーム画面という2つのレベルで明らかな差異があることなど、ゲームを切り口にさまざまなフィクションと現実への見方が提供された。ゲームは文学以上に現代フィクションの可能性を拡張しているが、逆にここからプログラムの枠を逸脱しても文化として機能できる文学の可能性を見出せるように思われた。この知見は、部分的ではあるが、令和1年度にニューヨーク大学で実施した国際シンポジウム World Literature as Japanese Literature（武田、小野、都甲、久保、桑田に加え、ニューヨーク大、イェール大からディスカッサントが参加）のなかで、武田が発表した。

3. 現代文学と研究の相互作用については、国内外で活発に活動した。すでに上の1、2の説明の中で、現役の作家を招聘して多数のシンポジウムを実施したことは示しているが、このほかに、飯田橋文学会、UTCP、東京大学ヒューマニティーズセンターと本科研が協力して、現代作家（美術作家含む）へのインタビューを連続して実施した。研究期間中には、横尾忠則、筒井康隆、島田雅彦、黒井千次、小川洋子、松浦理英子、奥泉光、堀江敏幸、村田喜代子、高橋睦郎、平田オリザ、池澤夏樹、吉本ばなな、李恢成の14名の作家への公開インタビューを実施し、現代文学の紹介に貢献した。本科研メンバーはみな積極的に国内外での交流を広げた。小野はインド、イギリス、北米を訪問して現地の作家、創作コースの教授、編集者などと広く交流し、桑田はフランス作家（ジェラルド・マセ、パスカル・キニャール、フィリップ・ジャコテなど）と交流を深め、久保はフランソワーズ・ラヴォカ（パリ3大学）、アリソン・ジェームズ（シカゴ大学）という、現代のフィクション論を牽引する研究者とともに、The International Society for Fiction and Fictionality Studies (I.S.F.F.S) を設立し、その副代表に就任した。また、期間中に2回、本科研が主催する国際研究集会（「魅惑するナショナリズム」および「東アジアにおける世界文学の可能性」）を実施し、日本と海外との研究者の連携を推進した。その他、本科研メンバーが海外でおこなった研究成果発表や、英語・フランス語で発表した論考も数多いが、特筆すべきは、令和1年度（2020年1月7日）にニューヨーク大学で実施したシンポジウム World Literature as Japanese Literature である。このシンポジウムは、ICCT/NYU Winter Institute という、ニューヨーク大学、北京大学、オーストラリア国立大学、東京大学を中心とする世界の大学の研究者が参加して年1回開催される学術イベントの一部に組み込まれ、本科研メンバーが全員英語で研究発表をおこなった。ニューヨーク大とイェール大から参加したディスカッサントと共に、世界文学や翻訳の問題について、詳細に検討し、このときの交友関係は現在も継続している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 11月
2. 論文標題 文字と身体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ムック『川上未映子』	6. 最初と最後の頁 240-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博、西川貴子	4. 巻 1
2. 論文標題 「事実への欲望 1920 - 30年代の「実話」ジャンルをめぐって」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『タイ国日本研究国際シンポジウム2018』	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 5
2. 論文標題 芸術家とモデルー ジェイムズ・ロードとジャック・デュパン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Art Trace Press	6. 最初と最後の頁 212-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田将明	4. 巻 5月号
2. 論文標題 誰を味方と呼べばよいのか。 / 敬虔にふるまい不敬の謗りを受けた以上は。	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 106-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 9月号
2. 論文標題 検索の外へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潮	6. 最初と最後の頁 224-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 1月号
2. 論文標題 本の読み方を教える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akihiro Kubo	4. 巻 LXVIII, N.4
2. 論文標題 Par-dela realisme et surrealisme - Le Chiendent de Raymond Queneau	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Jinbun Ronkyu (Humanities Review),	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei KUWADA	4. 巻 4
2. 論文標題 L'inquietante etrangete - le motif de l'eau dans l'oeuvre de Pascal Quignard	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Littera	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 9月号
2. 論文標題 喪失と再生 - - パスカル・キニャールの文学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 274-280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 1
2. 論文標題 果樹園を探して - - フィリップ・ジャコテ訪問記	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 午前四時のブルー	6. 最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田将明、円城塔、西川アサキ	4. 巻 初夏号 (5月)
2. 論文標題 第四次産業革命下にフィクションは必要か	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田将明	4. 巻 10月8日朝刊
2. 論文標題 ノーベル文学賞にカズオ・イシグロ氏 幻想の奥に潜む現実暗示	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野正嗣	4. 巻 5月号
2. 論文標題 靴を脱ぐこと、現実に触れること ダルデンヌ兄弟をめぐる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 82-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 11月号
2. 論文標題 村上春樹以降 - - アメリカにおける現代日本文学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 12月号
2. 論文標題 ジョン・ファンテ、あるいは文学の魂	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Magazine	6. 最初と最後の頁 98-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 3月号
2. 論文標題 モバイルハウスのつくりかた - - 革命後の世界を生きる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 210-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博	4. 巻 初夏号(5月)
2. 論文標題 ポスト・トゥルースあるいは現代フィクションの条件	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平(連携研究者)	4. 巻 60(4)
2. 論文標題 二〇一〇年代の野村喜和夫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 90-94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 4.91003E+12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平(連携研究者)	4. 巻 302
2. 論文標題 フランス現代アート雑感	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央評論	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 0911-8330	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田将明	4. 巻 12月号
2. 論文標題 小説の機能(5)『トム・ジョーンズ』と僭名の時空	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 118-153
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野正嗣	4. 巻 11月号
2. 論文標題 「東京スカイツリーの麓で あるコンゴ人難民の受難の物語」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新潮	6. 最初と最後の頁 219-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野正嗣	4. 巻 3月号
2. 論文標題 「闇のなか、カメラを灯火にして ジャンフランコ・ロージ『海は燃えている』をめぐって」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潮	6. 最初と最後の頁 153-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都甲幸治	4. 巻 1月号
2. 論文標題 トランプと人種差別	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 96-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博	4. 巻 35
2. 論文標題 古典主義の理論家レーモン・クノー 『ヴォロンテ』誌の論考をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 231-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 4
2. 論文標題 Hic et nuncの詩学 - - ボスフォワとジャコメッティ (3)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Art Trace Press	6. 最初と最後の頁 214-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計48件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 Masaaki Takeda, Toshiro Uemura, Kazuki Ochiai, Rie Suga
2. 発表標題 Imagined Identities: Fictional Production of Power, Value, Nature, and Nationality
3. 学会等名 ISECS Edinburgh 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、新井潤美、石塚裕子、松本三枝子
2. 発表標題 イギリス小説における黒人の表象あるいは不在
3. 学会等名 日本ギヤスケル協会第31回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Takeda, Tony Claydon, Chikashi Sakashita, Genji Yasuhira
2. 発表標題 Glorious Revolution and William III
3. 学会等名 研究会「名誉革命とウィリアム3世」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、林直樹、仙葉豊
2. 発表標題 『ロビンソン・クルーソー』出版300年記念シンポジウム：『ロビンソン・クルーソー』と近代日本
3. 学会等名 18世紀英文学研究会（ジョンソン協会関西支部）例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、石井剛、太田邦史、伊達聖伸、田辺明生、中島隆博、馬路智仁
2. 発表標題 世界人間学宣言
3. 学会等名 東アジア藝文書院
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Takeda, John Y. Zou
2. 発表標題 Kicking Away the Gold Coins: Otsuka Hisao 's Reading of Robinson Crusoe and the Human Archetype of Post-War Japan
3. 学会等名 ICCT/NYU Winter Institute (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masaaki Takeda, Masatsugu Ono, Koji Toko, Akihiro Kubo, Kohei Kuwada, Catharine Stimpson, Robyn Creswell, Nina Coryetz, Zakir Paul, Sonia Werner, and Yoon Jeong Oh
2. 発表標題 World Literature as Japanese Literature: How Novelists, Critics, and Translators Adapted Western Ideas
3. 学会等名 ICCT/NYU Winter Institute (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田将明、木村朗子、福嶋亮大、平野啓一郎、中島隆博
2. 発表標題 日本文学を構想する
3. 学会等名 京都フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田将明、曹泳日、李琴峰、日比嘉高、村上陽子、小沢自然、斎藤真理子、鈴木将久
2. 発表標題 東アジアにおける世界文学の可能性
3. 学会等名 科学研究費基盤B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masatsugu Ono, David Karashima, Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Japanese Literature and Translation After Murakami
3. 学会等名 Pembroke college, Oxford University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiro Kubo, Sho Saito, Masahide Goto, Sayano Osaki
2. 発表標題 “Enlightenment Style: Strategic Use of Fiction for Persuasion and Entertainment.”
3. 学会等名 ISECS Edinburgh 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 遠くて近いフィクション論の世界 シェフェールと文学研究
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2019年度秋季大会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博、武田将明、山本貴光、松永伸司
2. 発表標題 現代フィクションの可能性
3. 学会等名 科学研究費基盤B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 フィクションの現在 ジャン＝マリー・シェフェール『なぜフィクションか?』をめぐって
3. 学会等名 文学としての人文知
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 フィクション理論の射程 J-M.シェフェール『なぜフィクションか?』をめぐって
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同研究集会パネル「フィクション論で問い直す近代日本文学」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 カズオ・イシグロはなぜノーベル賞を取ったのか
3. 学会等名 東京大学オープンキャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明、大澤真幸、西垣通
2. 発表標題 「激動する世界」、その可能性を探る ギリシア悲劇を導入部として
3. 学会等名 Scot サマー・シーズン 2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明、古田徹也、影浦亮平、久山雄甫、大橋完太郎
2. 発表標題 批評と文学の他者 固有名と翻訳をめぐる
3. 学会等名 神戸大学大学院人文学研究科若手研究者支援プログラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Takeda, Remi Duthille, Kazuyoshi Oishi
2. 発表標題 “The Rights of Man and the Women of Pleasure!: Toasting, Politics, and Parody in Georgian Britain.”
3. 学会等名 科学研究費基盤B 世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、川本直、櫻原辰郎、宮崎智之
2. 発表標題 2019年に吉田健一を問い直す 「英国」とその文学を中心に
3. 学会等名 books青いカバ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、原田範行、中島渉、勝田俊輔
2. 発表標題 スウィフトとダブリン
3. 学会等名 ダブリン・ワーキンググループ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、大橋完太郎、菅利恵、富田広樹、鳥山祐介
2. 発表標題 18世紀ヨーロッパの小説史を再検討する 啓蒙思想の文脈から
3. 学会等名 科学研究費基盤B 世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武田将明、都甲幸治、アルパナー・ミシュラ、中村和恵、小松久恵
2. 発表標題 現代インドで女性として書くこと アルパナー・ミシュラさんとの対話
3. 学会等名 科学研究費基盤B 世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 都甲幸治
2. 発表標題 ライ麦畑、そしてそれから
3. 学会等名 上智大学特別講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野正嗣、デイヴィッド辛島、吉田恭子
2. 発表標題 Is Murkami an American Writer?
3. 学会等名 AWP19 Confernece (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiro Kubo
2. 発表標題 Au-dela du sur/realisme
3. 学会等名 Avant-Garde Realisms in 20th Century Visual Culture and Literature, 1914-1968 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohei KUWADA
2. 発表標題 Encore quelques sordidissimes
3. 学会等名 国際シンポジウム「旅、ことばからことばへ：パスカル・キニャールと文学のアトリエ」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 “With such alterations as might satisfy the curiosity of the public” George Psalmanazar, The Description of Formosaと十八世紀初頭の表象の臨
3. 学会等名 日本英文学会第89回大会 シンポジウム「身体・人種・人間 英語圏文学研究の人類学的転回」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 フィクションの彼方に 18世紀イギリス文学研究の最近の動向から
3. 学会等名 日本ジョンソン協会第50回大会 シンポジウム「18世紀イギリス文学研究の過去・現在・未来 日本からの発信をめざして」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 吉田健一と「英国」の文学
3. 学会等名 本科研主催シンポジウム「吉田健一と文学の未来」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明(司会のみ)、(以下講師)アニー・デュトワ、ヴェロニク・フランパール=ワイスパート、平野啓一郎、中島京子、大澤真幸、片山杜秀
2. 発表標題 魅惑するナショナリズム 文学・批評からの応答
3. 学会等名 本科研主催シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明、平野啓一郎、阿部賢一
2. 発表標題 「作家の言葉」の魅力とは？～映像と活字のメディアによる記録をめざして～『現代作家アーカイヴ 自身の創作活動を語る』（東京大学出版会）刊行記念
3. 学会等名 ジュンク堂池袋本店主催シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野正嗣、アキール・シャルマ、前田誠一
2. 発表標題 移民の文学、祈りの文学 アキール・シャルマ×小野正嗣 フォリオ賞受賞作『ファミリー・ライフ』をめぐる
3. 学会等名 本科研および新潮社主催講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masatsugu Ono
2. 発表標題 The Influence of French Literature on Modern Japanese Literature
3. 学会等名 The English International Symposium on European Languages in East Asia: Acceptance, Absorption, and Transformation in Languages, Literatures, and Cultures between East Asia and Europe (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 Le retour au classicisme est-il un paradoxe de la modernité?
3. 学会等名 名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター主催シンポジウム「前衛芸術と古典主義 1880年～1945年」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 文学の理念とその外部 日本近代における文学の起源・発生をめぐる言説
3. 学会等名 ハイデルベルク大学ワークショップ「日本の文学理論・日本文学を理論する」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑田光平(連携研究者)
2. 発表標題 ジャコモッティと詩人たち
3. 学会等名 国立新美術館招待講演(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 デリダ 『獣と主権者II』第1講～第4講を読む
3. 学会等名 脱構築研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武田将明
2. 発表標題 非国教徒(Dissenter)ダニエル・デフォーの市民的不服従 The True-Born EnglishmanからAnglo-Scottish Unionまで
3. 学会等名 日本ソロー学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 “ Somehow I Had Been Cheated by English Literature ” : Natume Kinnosuke ' s Irritation and the End of Literary Theory.
3. 学会等名 NTU-UTokyo Joint Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 Theories of Civilization in Modern Japan: From Soseki Natsue to Ango Sakaguchi
3. 学会等名 PKU-UT 2017 Spring Institute (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 Curiosity and Credulity:George Psalmanazar ' s The Description of Formosa and the Problem of Cultural Representation
3. 学会等名 PKU-UT 2017 Spring Institute (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 都甲幸治
2. 発表標題 村上春樹の翻訳
3. 学会等名 世界文学・語圏横断ネットワーク
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 岩野泡鳴の理論的言説
3. 学会等名 日本近代文学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 文学の理念とその外部 日本近代における文学の起源・発生をめぐる言説
3. 学会等名 ハイデルベルク大学ワークショップ「日本の文学理論・日本文学を理論する」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑田光平
2. 発表標題 白、エクリチュールの色 - バルトとデュラス
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会全国大会ワークショップ「マルグリット・デュラス没後20周年 - 21世紀におけるデュラス」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 桑田光平
2. 発表標題 ピエール・ルヴェルディのモデルニテ
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所「モダニズム研究」チーム公開研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kohei KUWADA, Kazuhiko SUZUKI
2. 発表標題 Lettres japonaises (「日本人の手紙」)
3. 学会等名 国際シンポジウム「ジェラルド・マセの世界」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 武田将明、石田淳、津田浩司、長谷川宗良ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 東京大学駒場スタイル	

1. 著者名 武田将明、松本朗、岩田美喜、木下誠、秦邦生ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 408 (担当: 40-56, 340-42)
3. 書名 イギリス文学と映画	

1. 著者名 武田将明、高橋和久、丹治愛ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 松柏社	5. 総ページ数 460 (担当: 463-87)
3. 書名 二〇世紀「英国」小説の展開	

1. 著者名 小野正嗣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 135
3. 書名 100分de名著 大江健三郎 『燃えあがる緑の木』	

1. 著者名 都甲幸治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 立東舎	5. 総ページ数 256
3. 書名 「街小説」読みくらべ	

1. 著者名 ジェラルド・マセ (桑田光平訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 320
3. 書名 つれづれ草	

1. 著者名 武田将明、坂本武、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開文社	5. 総ページ数 381 (担当: 157-76)
3. 書名 ローレンス・スターンの世界	

1. 著者名 武田将明、川本直、櫻原辰郎、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 富山房インターナショナル	5. 総ページ数 312 (担当: 196-200, 234-62, 265-66, 275-76, 276-77)
3. 書名 吉田健一ふたたび	

1. 著者名 ジュノ・ディアス (都甲幸治訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 汐文社	5. 総ページ数 49
3. 書名 わたしの島をさがして	

1. 著者名 ドン・デリーロ (都甲幸治訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 156
3. 書名 ポイント・オメガ	

1. 著者名 ジャクリーン・ウッドソン (都甲幸治訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汐文社	5. 総ページ数 32
3. 書名 みんなとちがうきみだけど	

1. 著者名 小野正嗣	4. 発行年 2018年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 歓待する文学	

1. 著者名 小野正嗣	4. 発行年 2018年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 148
3. 書名 ヨロコビ・ムカエル?	

1. 著者名 ジャン＝マリー・シェフェール(久保昭博訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 344
3. 書名 なぜフィクションか?	

1. 著者名 Kohei KUWADA, Ridha BOULAABI, Claude COSTEほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Le temps qu'il fait	5. 総ページ数 224(担当: 179-191)
3. 書名 Les mondes de Gerard Mace	

1. 著者名 ジェラルド・マセ（桑田光平訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 168
3. 書名 記憶は闇の中での狩りを好む	

1. 著者名 日本英文学会（関東支部）武田将明ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 334
3. 書名 教室の英文学	

1. 著者名 東京大学教養学部 武田将明、桑田光平ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270
3. 書名 分断された時代を生きる	

1. 著者名 飯田橋文学会、武田将明、高橋源一郎ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代作家アーカイヴ 1	

1. 著者名 飯田橋文学会、武田将明、谷川俊太郎ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代作家アーカイヴ2	

1. 著者名 飯田橋文学会、阿部公彦ほか（武田将明編集協力）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 240
3. 書名 現代作家アーカイヴ3	

1. 著者名 小森陽一、武田将明ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 832
3. 書名 漱石辞典	

1. 著者名 都甲幸治	4. 発行年 2017年
2. 出版社 立東舎	5. 総ページ数 256
3. 書名 今を生きる人のための世界文学案内	

1. 著者名 中央大学人文科学研究所編、桑田光平（連携研究者）ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 308
3. 書名 モダニズムを俯瞰する	

1. 著者名 桑田光平（連携研究者）ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 TBSテレビ	5. 総ページ数 267
3. 書名 ジャコモッティ展図録	

1. 著者名 桑田光平（連携研究者）、荒谷大輔、池松壮太、小長野航太	4. 発行年 2018年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 ラカン『精神分析の四基本概念』解説	

1. 著者名 Barnaby Ralph, Angela Kikue Davenport, Yui Nakatsuma, Masaki Takeda, et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 161（内49-64を執筆）
3. 書名 London and Literature 1603-1901: A Festschrift in Honour of Professor Eiichi Hara. (内Chapter 4 "Autonomy and Ambiguity of the Trading Capital: Daniel Defoe's Journal of the Plague Year"執筆)	

1. 著者名 都甲幸治、武田将明、桑田光平ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 立東舎	5. 総ページ数 256
3. 書名 世界の8大文学賞 受賞作から読み解く現代小説の今	

1. 著者名 原田範行、阿部公彦、津田正、武田将明ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 未定
3. 書名 教室の英文学	

1. 著者名 Fabien ARRIBERT-NARCE, Kohei KUWADA, Lucy O'MEARA	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Honore Champion	5. 総ページ数 348
3. 書名 Receptions de la culture japonaise en France depuis 1945 : Paris-Tokyo-Paris	

1. 著者名 鈴木雅雄、塚本昌則、桑田光平ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 590 (論文「消えゆく声 - - ロラン・バルト」: 44-73)
3. 書名 声と文学 拡張する身体の誘惑	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 正嗣 (Ono Masatugu) (20431778)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	都甲 幸治 (Toko Koji) (50386570)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	久保 昭博 (Kubo Akihiro) (60432324)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	
連携研究者	桑田 光平 (Kuwada Kohei) (80570639)	東京大学・総合文化研究科・准教授 (12601)	